

平成 2 5 年千葉市教育委員会会議
第 1 回臨時会会議録

千葉市教育委員会

平成25年千葉市教育委員会会議第1回臨時会会議録

日時 平成25年3月11日(月)

午前8時30分開会

午前 8 時 5 0 分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委員	長	内山	英夫
	委	員	和田	麻理
	委	員	篠原と	もえ
	委	員	中野	義澄
	委	員	明石	要一
	教	育	志村	修

出席職員	教 育 次 長	小池よね子	総 務 課 長	初芝 勤
	教 育 総 務 部 長	竹川 幸夫	教 職 員 課 長	宇田 英弘
	学 校 教 育 部 長	磯野 和美	総 務 課 総 括 主 幹	久我 千晶
	生 涯 学 習 部 長	原 誠司	総 務 課 主 幹	内山 健

書	記	總務課長補佐	南久志	總務課主任主事	今津剛
		總務課委員会係長	土肥慶典	總務課主任主事	片岡比佐史
		總務課人事係長	鵜田昌奈		

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より明石委員を指名
- 4 会期の決定
平成25年3月11日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
 - (1)非公開事項の決定
議案第6号及び議案第7号を非公開審議とする旨決定
 - (2)議決事項
議案第6号 県費負担教職員の人事について
教職員課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第7号 事務局等職員の人事について
総務課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (3)発言の要旨
議案第6号 県費負担教職員の人事について
委員長 教職員課長、説明をお願いします。
教職員課長 議案第6号「県費負担教職員の人事について」、説明します。
平成25年3月31日付け及び同年4月1日付け千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の校長及び教頭の県費負担教職員の管理職人事発令について、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定に基づき、議決を求めるものです。
4月1日付けの管理職の人事発令においては、「平成24年度末及び25年度公立学校職員人事異動方針」に基づき、次の点に配慮しました。
1点目ですが、今年度の退職校長は57人で、本市の小・中・特別支援学校の校長の3分の1にあたります。このような大幅な交代期を踏まえ、管理と指導に優れ、高い識見を有した管理職の登用に努め、適材適所の管理職人事に努めました。
2点目として、女性管理職の登用については、これまでと同様

に、積極的に推進しました。今年度末に7人の女性校長が退職しますが、新たに同数の7人を登用しました。

それでは「校長の部」から説明します。

まず退職ですが、「新宿小学校 小寺道明」をはじめ、57人です。内訳は、小学校43人、中学校14人であり、そのうち定年退職校長56人となっており、平均在職年数は4.2年です。

次に新任ですが、来年度に新設となる「高等特別支援学校 野口洋子」をはじめ、51人を昇格させたいと考えています。内訳は、小学校35人、中学校14人、特別支援学校2人です。新任校長のうち、最年少は、「上の台小学校 伊原浩昭」をはじめ、2人の52歳、最年長は「畑小学校 永井文夫」をはじめ、17人の57歳で、平均年齢は55.7歳です。

なお、女性校長の全体の数は27人となります。

次に転出ですが、本市と県との人事交流を終え、「磯辺第二小学校校長 我妻健次」が「市原市立清水谷小学校校長」として、「幸町第二小学校教頭 阿部貴幸」が「市川市立百合台小学校校長」として県へ転出します。

また、新たな人事交流として養護教育センター主任指導主事「高山玲子」が、「市原市立水の江小学校」の新任校長として赴任します。

次に採用ですが、県との人事交流により、「八千代市立村上北小学校教頭 伊藤泰彦」を「長作小学校校長」として採用します。

また、配置換えですが、「登戸小学校 奥村兼弘」をはじめ、23人です。

内訳は、小学校14人、中学校9人です。

次に再任ですが、教育委員会から再度、校長として学校現場に転任する者で、「新宿小学校 沼倉徹」をはじめ、8人です。

この8人の校長相当職としての事務局在職年数は平均2.6年となっています。

次に「行政へ」ですが、校長から教育委員会事務局に来る者で、「幸町第二小学校校長 長瀬秀二」をはじめ、5人です。これらの者の平均年齢は56.0歳で、全員が、教頭・教諭時代に本市の教育委員会事務局を経験しています。

ここまでの校長の異動です。校長の異動にあたっては、学校規模や学校の状況、また校長としての経験年数等を配慮するとともに、過去の勤務経験や研究指定校の有無、生徒指導上の課題等を

勘案しながら、これまでの経験や実績を踏まえて、適正配置に努めました。また、高等特別支援学校や特別支援学校、多くの特別支援学級を設置している学校については、特別支援教育に長けた校長を配置するなど、適材適所に努めました。

続いて、「教頭の部」について説明します。

まず退職ですが、「都賀中学校 長岡誠」の1人で、定年退職です。

続いて新任ですが、「新宿小学校 山崎二郎」をはじめ、38人です。内訳は、小学校22人、中学校15人、特別支援学校1人で、昇格者の平均年齢は、51.6歳です。最年少は49歳で、「小中台南小学校 宇井高一」をはじめ、3人です。最年長は54歳で、「みつわ台北小学校 中島絹子」となっています。

また、女性の登用ですが、「山王小学校 由利知子」をはじめ、5人です。これにより、平成25年度の女性教頭は今年度の18人から2人増え、20人となります。

次に転出ですが、県との人事交流により、「大森小学校教諭 深田弘」が、「習志野市立向山小学校」の新任教頭として、また「小中台中学校教頭 坂本紹一」が、「千葉大学教育学部附属中学校 副校長」として転出します。

また、「市原市辰巳台西小学校教頭 日野玲子」が「蘇我小学校教頭」として転入します。

次に採用ですが、千葉県との人事交流により「袖ヶ浦市立蔵波小学校教諭 平川真」が「大蔵寺小学校教頭」として採用になります。

次に配置換えですが、「都賀小学校 山本美江子」をはじめ、39人です。内訳は、小学校23人、中学校16人です。校長の配置換えと同様、経験年数、教科等の専門性、学校規模等、様々な要件を考慮して、適材適所の配置に努めるとともに、新任の教頭については、校長経験者との組み合わせ、また、教頭経験者については、新任の校長と組み合わせるなど、校長・教頭の経験年数に応じてバランスのとれた配置となるよう配慮したところです。

最後に「行政へ」ですが、教頭職から教育委員会事務局へ異動する者で、「土気小学校 加瀬達也」をはじめ、10人で、これらの者の平均年齢は52.8歳です。

委員 準要保護児童の割合が20%を超えていたり、生徒指導上問

題のあるような、いわゆる教育困難校について、どのような配慮がされたのでしょうか。

教職員課長 準要保護児童の割合が20%を超えている学校の多くは現在の校長が留任し、継続して学校の運営にあたってもらっていることになっています。

また、15%を超える学校については6校の校長が異動し、そのうち2校は新任の校長となりましたが、その2人は、当該学校に勤務経験があるなど、学校の状況を把握している者を配置しました。

また、生徒指導困難校についても、生徒指導に長けた者を配置するなど、配慮を行いました。

議案第7号 事務局等職員の人事について

委員長 総務課長、説明をお願いします。

総務課長 議案第7号「事務局等職員の人事について」、説明します。

平成25年3月31日付け、及び4月1日付け人事異動のうち、職務の級が5級以上の管理職に関する人事について、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定に基づき、議決を求めるものです。

まず、3月31日付けの人事発令は「新港学校給食センター所長 大野辰巳」ほか8人の定年退職者、また「学事課長 佐藤宏喜」ほか26人の学校への帰任者等へ、退職発令をするものです。

次に、4月1日付け人事発令については、他部局や学校現場等との人事交流による組織の活性化及び定年退職者等による欠員の補充を基本とし、適材適所の配置に努め、発令を行うものです。課長級で29人、課長補佐級で40人に、それぞれ発令しますが、事務局内部での課長補佐級への昇格者5人のうち、3人は女性となっているなど、女性職員の登用にも努めています。次に採用ですが、学校現場から事務局への採用者となり、課長級の「学事課統括管理主事 森健」をはじめ、15人を新たに採用します。

7 その他

- (1) 次回第3回定例会は、平成25年3月21日（木）、午後2時より開催することと決定した。

8 閉会

内山委員長より閉会を宣言